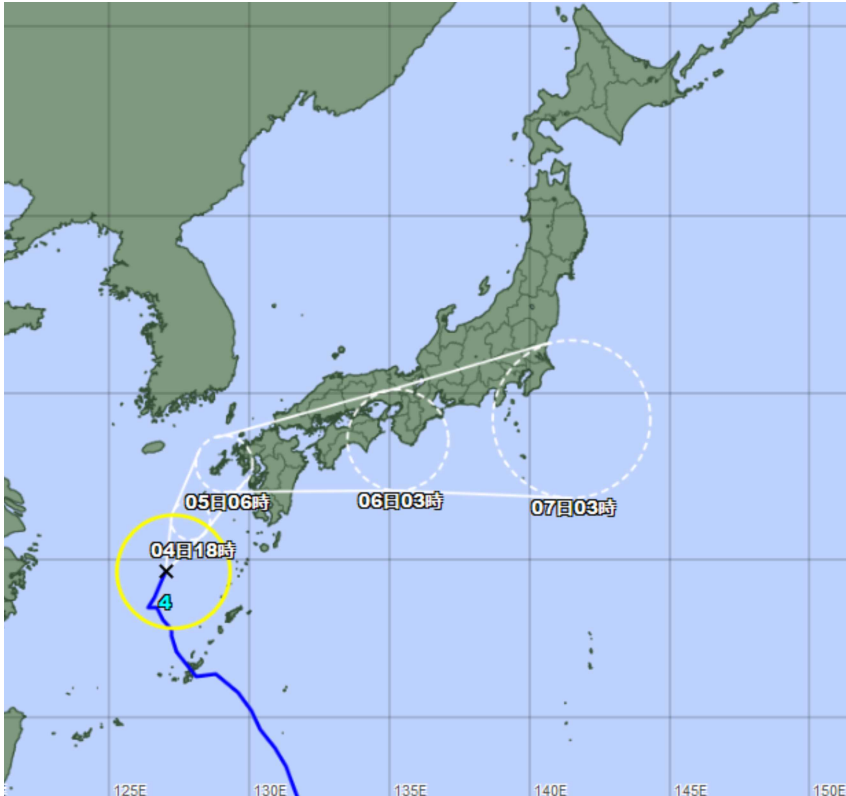


台風4号に対する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課



台風4号が北上しています。
本県には7月7日頃に接近する可能性があります。

(台風の経路図は気象庁ホームページより引用)

今後の台風情報に留意し、農作物等の管理には万全を期してください。

水路等が増水している場合や土砂災害等のおそれがある場合は、危険な場所には近づかないでください。

なお、台風通過後は再び高温となるおそれがありますので、6月21日発行の農業技術情報第7号「高温条件下における農作物等の技術対策」に基づき、対策を徹底してください。

1 水 稲

(1) 事前対策

- ア 増水に備え用排水路を点検し、ゴミ等を取り除いておきます。
- イ 畦畔が崩壊しないよう点検し、必要に応じて補強しましょう。

(2) 事後対策

- ア 冠水した場合は、少しでも早く葉先を出すよう早急に排水しましょう。特に、濁水がほ場内に停滞した場合は、早急に水の入替えを行いましょ。速やかな排水は、黄化萎縮病対策としても重要です。
- イ 浸水・冠水したほ場では病虫害が発生しやすくなるので、ほ場をよく観察し必要に応じて薬剤による防除を行いましょ。
- ウ ほ場内に流木等の異物が流入した場合は、早期に取り除きます。

2 大豆及び秋ソバ（播種予定ほ場を含む）

（1）事前対策

速やかにほ場から排水ができるよう明きょ、暗きょ等を点検し、ゴミ等の除去などを実施しておきましょう。水田転換畑で滞水しやすいほ場では、必要に応じて畦畔の切削等を実施し排水に備えましょう。

（2）事後対策

表面水や明きょの滞水は早急にほ場外に排水しましょう。

3 野菜・花き

（1）事前対策

ア 共通

（ア）ほ場周囲の排水溝を点検し、速やかに排水できるようにしておきましょう。水害が発生しやすい場所では強制排水のポンプも準備しておきましょう。

（イ）ほ場周囲に防風ネットを設置している場合は、ワイヤー・針金の緩みやネットの破損を点検し補修しましょう。

（ウ）パイプハウスでは、被覆資材及び止め具（マイカ線、ビニペット等）を点検し、ビニールの破損があれば補修しましょう。

（エ）パイプハウスやネット栽培等で支柱を使用しているものは筋交いを入れ、補強しましょう。

（オ）施設では、天窓や扉があおられたり風が吹き込まないように完全に閉めておきましょう。

（カ）雨よけのみのパイプハウス等は強風に弱いため、ラセン杭、ハウスバンド等で浮き上がらないようにしっかりと固定しましょう。

（キ）収穫可能なものは、できるだけ台風接近前に収穫しましょう。

（ク）は種期や定植期となっているものは、台風通過後に実施しましょう。

イ 野菜

露地きゅうりやさやいんげんは、支柱やネットにしっかりと誘引しておきましょう。なすやピーマン、アスパラガスは、支柱やフラワーネットを点検し、倒伏を防止しましょう。

ウ 花き

露地栽培では、フラワーネットや支柱を点検し、倒伏や曲りを防止しましょう。

（2）事後対策

ア 共通

（ア）停滞水は、明きょなどで速やかな排水に努めましょう。

（イ）ネギやリンドウなど倒伏したものは、茎が曲がるのを防ぐため、できるだけ早く引き起こすとともに、茎葉に泥土が付着している場合は、動力噴霧機などにより水をかけて洗い流し、適切な薬剤散布を行いましょう。

（ウ）台風通過後は、吹き返しに注意しながら、施設等の換気を図りましょう。

イ 野菜

（ア）排水後、ほ場作業が可能になったら直ちに畦間の中耕を行い、土壌の通気性を良くし根の動きを回復させましょう。

（イ）マルチ被覆している畦が冠水した場合、マルチ内の土壌水分は過多となりやすいため、マルチを一時的に取り除いて乾燥させましょう。

（ウ）果菜類は、損傷を受けた果実は早急に摘果しましょう。ネット等からはずれたつるや茎葉等は、再度誘引しましょう。茎葉の損傷が激しい場合は、新葉（枝・つる）の発生を確認してから摘除しましょう。

（エ）冠水や多湿、茎葉の損傷等により病害にかかりやすくなるので、直ちに適切な

薬剤散布を行いましょ。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょ。

(オ) 冠水時間が長く回復の見通しがいい場合は、他作物への転換やまき直しを行いましょ。

ウ 花き

(ア) キクやリンドウなど露地の花きは、風雨により損傷を受けると病害が発生しやすいので、速やかに適切な薬剤散布を行い、草勢回復のために液肥の葉面散布を行いましょ。

(イ) ほ場が冠水した場合は、速やかに排水を行うとともに、付着した泥を洗い流し、灰色かび病等の予防のため薬剤散布を行いましょ。また、液肥の葉面散布や酸素供給剤のかん注により、草勢回復を図りましょ。

4 果樹

(1) 事前対策

ア 現在、収穫期に入っている果樹では、強風による落果や傷害が懸念されるので、収穫可能な果実は事前に収穫しましょ。

イ モモせん孔細菌病やナシ黒星病等の病害が発生している地域では、台風の風雨の影響で感染が拡大するおそれがありますので、台風の接近前に防除を実施しましょ。

ウ 立木では、主枝などの大枝が裂けるおそれがあるので、支柱で支え、脱落しないよう枝受け部分を結束しましょ。また、側枝は支柱等で固定すると落果を助長することがあるので、支柱等はずし風になびくようにしましょ。

エ りんごのわい性台樹は倒伏しやすいので、支柱への結束状態を確認し、不十分な場合は補強しましょ。また、木支柱の場合は、支柱の根元が腐敗していないか確認しましょ。

オ 果樹棚（なし、ぶどう等）等の施設は、前もって点検し、強風の前にアンカー補強や棚線の締め直し等を行いましょ。また、棚周囲に防風ネットを設置している場合は、風で飛ばされないように補強しましょ。

(2) 事後対策

長時間に渡る浸水や滞水は根や葉の呼吸を阻害し、生育不良や枯死を招くので速やかに対策を実施してください。

ア 滞水している園地では、明きょなどにより速やかな排水に努めましょ。

イ 落果した果実は速やかに収集し、適正に処理しましょ。

ウ 葉や果実に損傷がある場合は、病原菌の侵入を防止するため、被害1～2日後に適切に薬剤散布を実施しましょ。なお、被害後に定期散布が近い場合は、この散布に置き換えて実施しましょ。

エ 落葉や葉の損傷が大きい場合には、その程度に応じて修正摘果を行いましょ。

オ 倒伏した樹はできるだけ早く起こし、土を盛り、支柱等で固定しましょ。また、かん水やマルチにより根の乾燥防止に努め、新根の発生を促します。大枝が裂けた場合は、ボルトやカスガイ等で止めるか、縄などでしばり傷口を接着させましょ。

カ 台風通過後は、フェーン現象により一時的に高温になり、乾燥した風により葉焼け等が発生しやすくなります。このような場合はスピードスプレーヤ等で散水し、樹体温を下げるとともに湿度を維持し、被害の軽減を図りましょ。

5 畜産・飼料作物

(1) 事前対策

- ア 強風による畜舎、飼料庫、飼料タンク、堆肥舎等の損壊、及び風雨の吹き込みを未然に防止するため、屋根、扉、窓、外壁及び排水溝等の破損や亀裂等の有無を確認し、必ず補修等の応急措置を行いましょう。
- イ 開放された飼料の保管場所では、飼料をシートで覆うなどして、雨水がかからないようにしてください。
- ウ 堆肥舎は、風雨の吹き込みにより、堆肥や汚水が流出することが心配されますので、堆肥をシートで覆うなどして、流出を防止しましょう。
- エ 停電や断水等の対応をあらかじめ確認し、被災時には、自家発電機等による搾乳や生乳冷却等の対応ができるよう準備をしておきましょう。
- オ 水はけの悪い草地や飼料畑には、明きょを掘削するなど、速やかに排水できるようにしましょう。

(2) 事後対策

- ア 畜舎等が浸水した場合は速やかに排水し、疾病発生予防のため洗浄と消毒を行った後、施設内の乾燥に努めましょう。
- イ 滞水している草地や飼料畑は、明きょなどを点検し、速やかに排水しましょう。
- ウ 豪雨により草地や飼料畑で土壌浸食が発生した場合は、早めに修復しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7344

○農業振興課ホームページ

以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>